



厚木高校3年生、瀧奏太。

第25回日本情報オリンピック(JOI2025/2026)でのファイナルステージ進出、アジア太平洋情報オリンピック(APIO 2026)での銀メダル獲得に加え、文部科学大臣特別賞を受賞した次世代の日本を担う1人であり、物理化学部(物化部)の絶対的エースである。

最高学年の部員の一人として1、2年生を引っ張るように精力的に活動している。スーパーサイエンス研究室(SS研)の2025年度副部長でもある。

今回は、彼に物化部広報班が行った取材の内容についてお伝えしよう。

* アジア太平洋情報オリンピックとは？

アジア太平洋に位置する国々が交互にホストとなって主催する国際情報オリンピックに準じた地域大会である。課題に対してより高性能なアルゴリズムを構築してプログラム化する適切な能力が求められる。

* 文部科学大臣特別賞とは？

日本国内の教育、科学技術、学術、文化、スポーツなどの分野において、顕著な活躍や優れた成果を挙げた個人や団体に対し、文部科学大臣の名義で授与される栄誉ある賞の一つである。

Q.現在の心境は？

良い結果を残すことができるととても嬉しい。大会参加への手続き、プログラミングの指導など、協力していただいた先生方に感謝したい。

Q.なぜ情報オリンピックに出ようと思った？

プログラミングに少し興味を持っていて、軽い気持ちでやっていたら結局全部楽しくてついやりきってしまった。特に難しい問題を考えて解けた時が一番楽しかった。

Q.大会までの日々の中で大変だったことは？

情報オリンピックの勉強はどれも楽しくて、たしかに大変でしたが、楽しさが大変さを上回って本当に充実していたと思います。

Q.大会本番で特に難しかった出題内容は？

3問とも非常に難しく、レベルが高かったが、日本情報オリンピックのファイナルのあとだったこともあり、問題形式を把握することができていてアイデアが思いつきやすかった。

Q.伝えたいことがあればなにか一言

みなさんも興味があることがあれば諦めずに挑戦してみてください。諦めずに挑戦すれば、なにかは必ず実ることがあると思います。